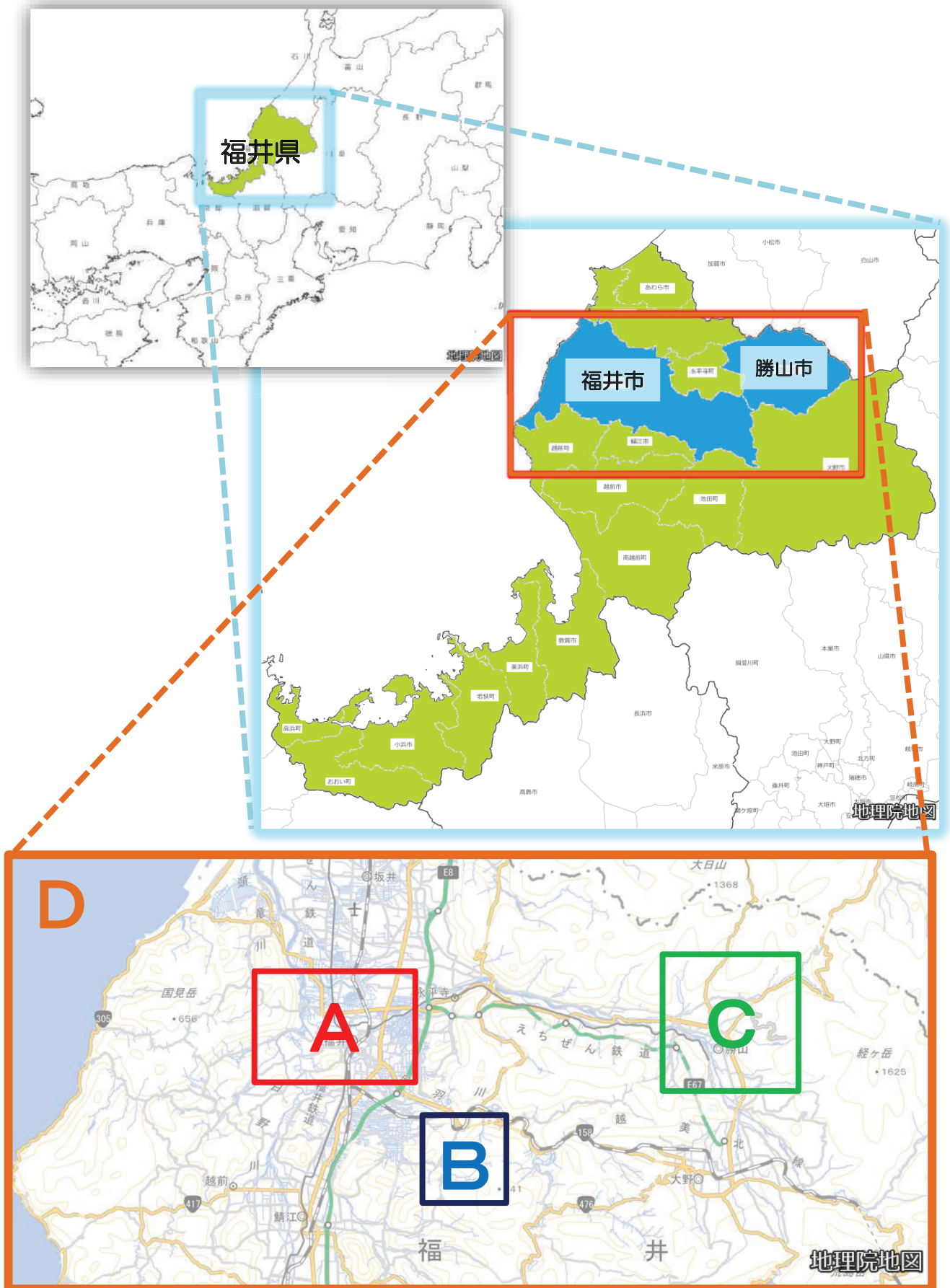


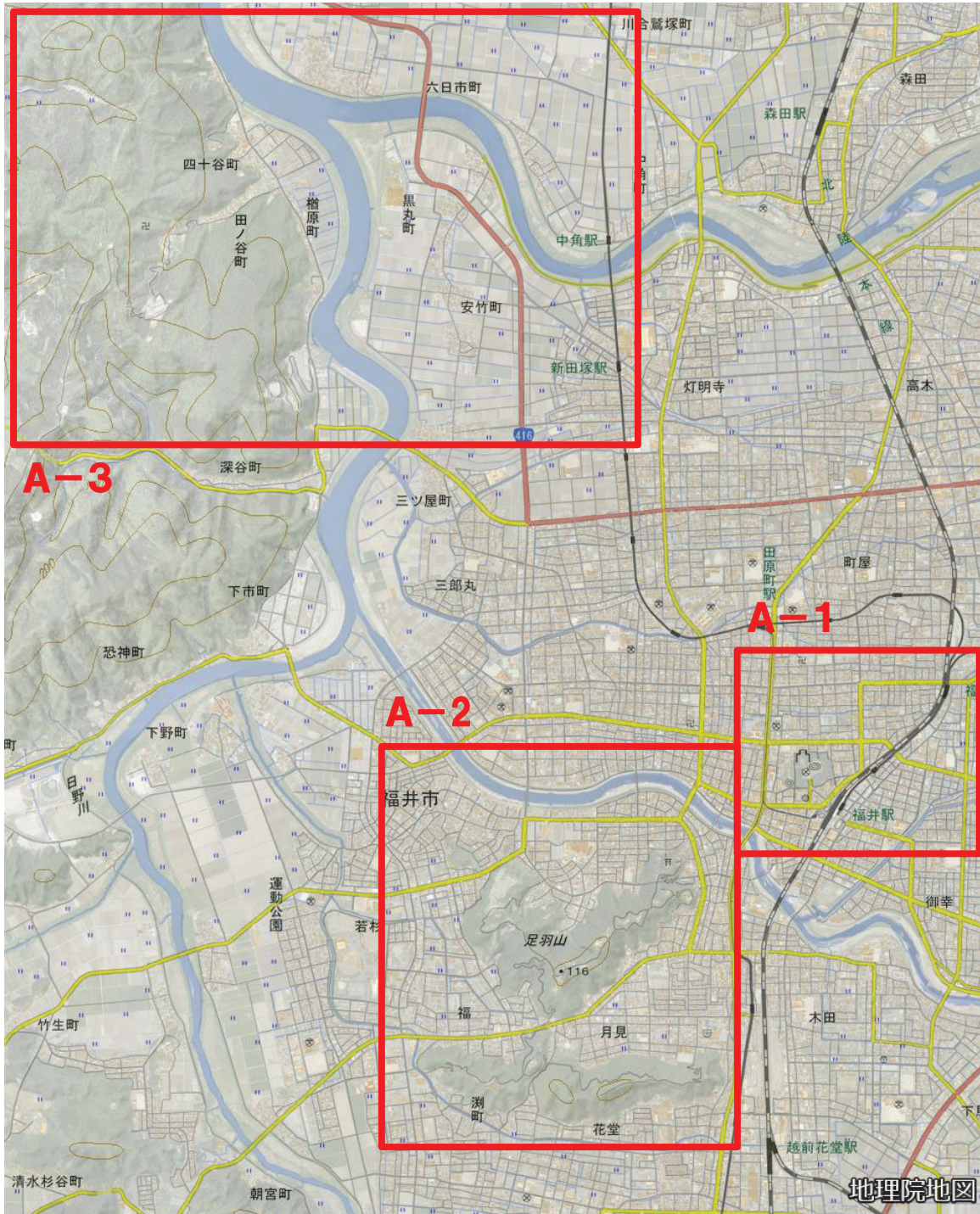
① 申請者	◎福井県 (福井市、勝山市)	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E				
③ タイトル							
(ふりがな)	よんひゃくねんのれきしのとびらをあけるたび ～いしからよみとくちゅうせい・きんせいのまちづくり えちぜん・ふくい～						
400年の歴史の扉を開ける旅 ～石から読み解く中世・近世のまちづくり 越前・福井～							
④ ストーリーの概要 (200字程度)							
<p>越前・福井では、中世期に地方に生まれ、大量の石を用いて計画的につくられた都市が今も独特の空間を醸し出しています。また、近世期の城下町では、風景に溶け込んだ美しい青色の石が天候によって街並みの色合いを変化させ、自然の力が大地を階段状につくり上げた街の中心部には石の壁が続きます。</p> <p>様々な形に姿を変えて時代を越えてきた石が私たちを出迎える越前・福井は、日本人と石との共生の歴史や屈指の石づくり文化を体感させてくれる地です。</p>							
<table border="0"><tr><td data-bbox="209 902 667 1205"><p>一乗谷</p></td><td data-bbox="770 902 1238 1205"><p>平泉寺白山神社</p></td></tr><tr><td data-bbox="451 1173 807 1435"><p>笏谷石</p></td><td data-bbox="1002 1173 1385 1424"><p>福井城址</p></td></tr></table>				 <p>一乗谷</p>	 <p>平泉寺白山神社</p>	 <p>笏谷石</p>	 <p>福井城址</p>
 <p>一乗谷</p>	 <p>平泉寺白山神社</p>						
 <p>笏谷石</p>	 <p>福井城址</p>						

市町村の位置図 (地図等)



構成文化財の位置図 (地図等)

**Aエリア** <福井市街地>



### A-1 【 福井城址、養浩館庭園 周辺 】



- |          |
|----------|
| 13 北ノ庄城址 |
| 15 福井城址  |
| 16 芝原用水  |
| 25 養浩館庭園 |

### A-2 【 足羽山・九十九橋 周辺 】



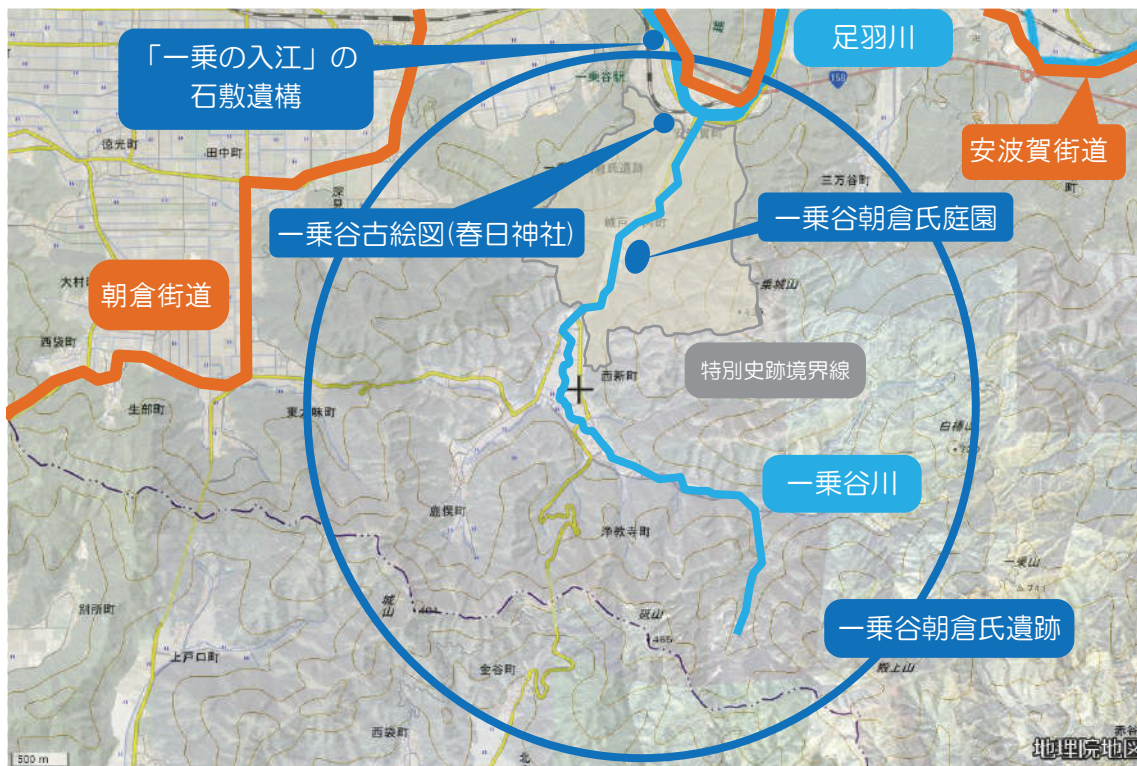
9	足羽川
14	九十九橋
17	丹巖洞
19	足羽山周辺の景観

### A-3 【 大安禅寺 周辺 】



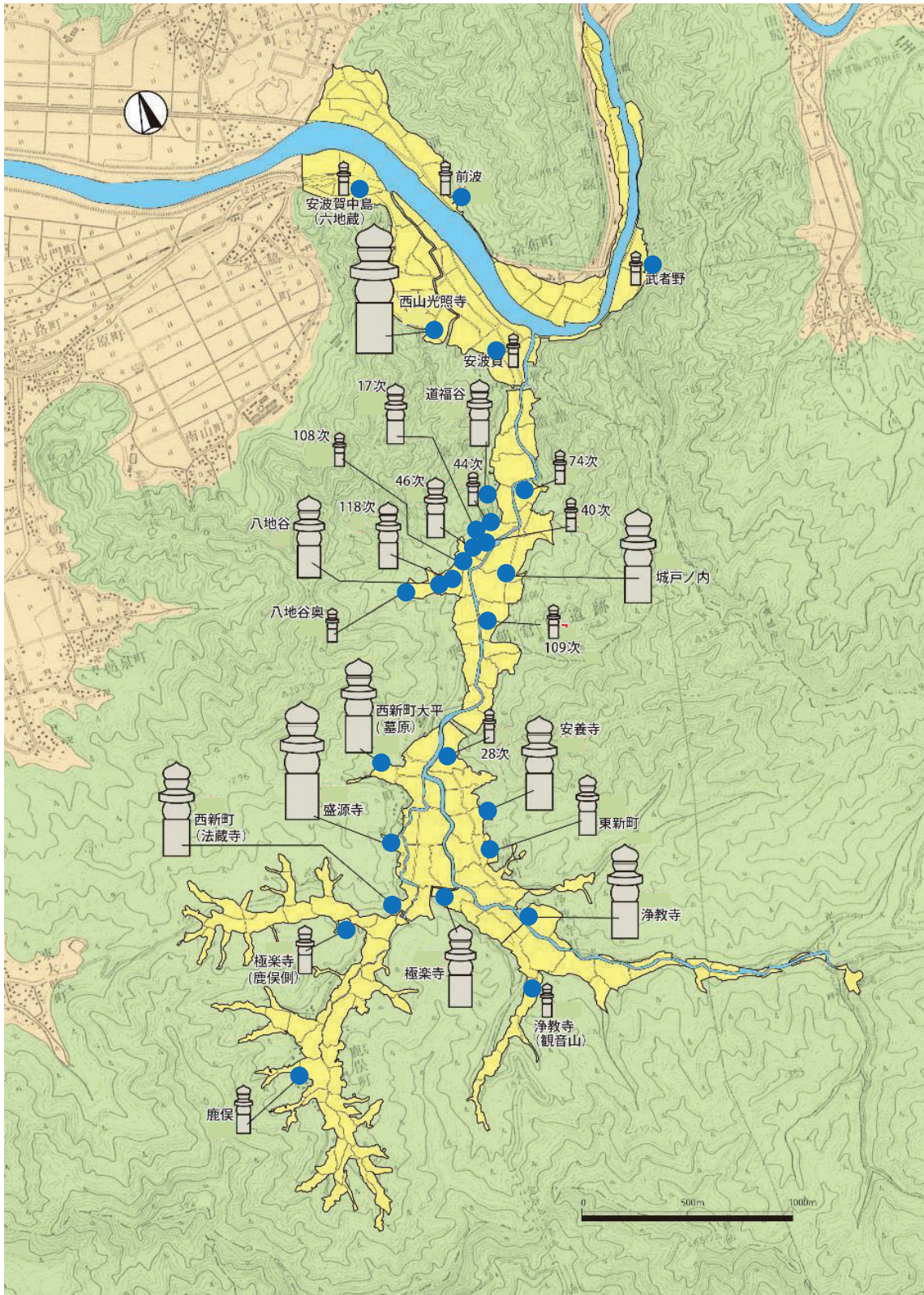
9	九頭竜川
18	大安禅寺

## B エリア <一乗谷地区>

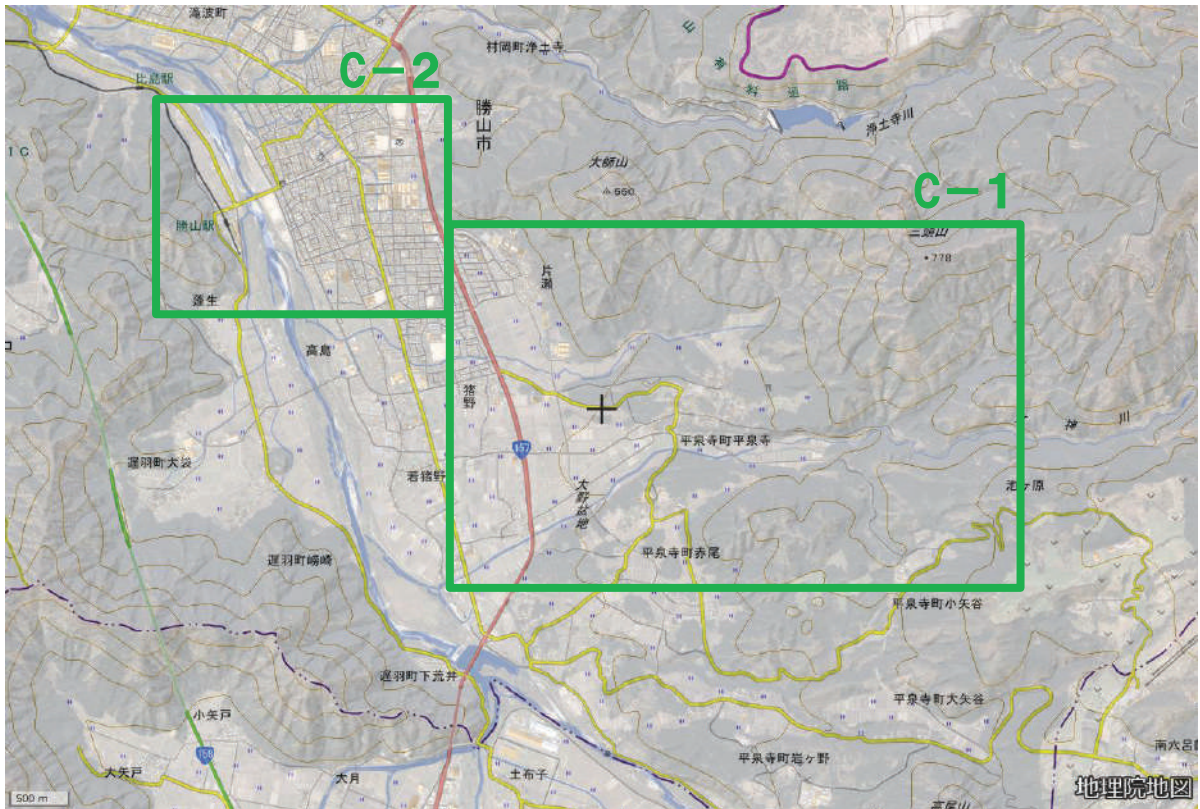


1	一乗谷朝倉氏遺跡
3	一乗谷古絵図
5	「一乗の入江」の石敷遺構
6	美濃街道
7	朝倉街道
8	安波賀街道
9	足羽川
9	一乗谷川

## B エリア <一乗谷地区>



## Cエリア <勝山市>



### C-1 【白山平泉寺周辺】



## C-2 【 勝山市街地 】



9	九頭竜川
20	七里壁
21	旧勝山城下の街並み景観
22	大清水

## D エリア 【 九頭竜川・足羽川 】



## D エリア 【 美濃街道・安波賀街道・朝倉街道 】



6	美濃街道
7	朝倉街道
8	安波賀街道
9	九頭竜川
9	足羽川
9	一乗谷川

## ストーリー

太古の昔より、人々は石とともに歴史を歩んできました。山から切り出され、目の前に立ちはだかる巨石の壁、整然と敷き詰められた自然石の苔むした石畳、屋敷を支える無数の礎石や石垣。まちづくりに使われた石は、当時のまちの姿、武士や庶民の暮らし、人々の切なる思いなど、今を生きる私たちに語りかけます。

## (石づくりの戦国城下町と中世宗教都市)

室町幕府の権威低下や商業、文化の発達に伴い、地方にも新たな都市が誕生した中世・戦国期。古代より京都から北陸道諸国を結ぶ交通の要所であった越前・福井に生まれた二つの大きな都市は今も独特の空間を醸し出しています。そこに静かに佇む石と向き合うと、栄華を極めた往時の姿が目前によみがえります。

福井市街地から美濃街道を足羽川沿いに進み、南側へと支流が分岐した福井市の南東部。三方を山に囲まれ、川が流れる狭い谷間の平野に伝統的民家が建ち並ぶこの地区は、戦国大名の朝倉氏が街道や水運を巧みに利用してつくり上げ、越前国支配の拠点となった「一乗谷」です。一乗城山の麓に位置し、自然の要害としての地形を活かしたこの地は、当時、政治・文化都市として繁栄し、武家屋敷や町屋、寺院などが密集・混在した空間に約1万人が暮らしたとされます。一乗谷を訪れると、濠や土塁をはじめ、幹線道路や川の両側に計画的に配置された町並みなどに戦国期特有の城下町の姿を見てとれます。城下町入り口の下城戸しもまきどの通路の両側には、他国や一向一揆



一乗谷の復原町並



一乗谷の下城戸

などの争いに備えて巨石が5メートルもの高さで積み上げられ、今も当時の緊張感を伝えています。また、谷間の傾斜地から一乗谷川へと繋がる川の護岸、船着き場や荷揚げ場の機能を果たした川湊の入江には丁寧な石積みが見られます。一乗谷周辺から運ばれ、まちづくりを支えた大量の石は当時の暮らしだけでなく、城下町の賑わいや匂いまでも感じさせます。一乗谷において発展した石積みや石利用の技術は、近世以降の築城技術につながったと考えられています。

一乗谷から美濃街道をさらに東へ進み、分岐して九頭竜川を越えると、白山連峰の麓に勝山盆地が広がります。かつてこの地は白山信仰の拠点として発展し、戦国期に最盛期を迎えた白山平泉寺が支配しました。当時、白山平泉寺周辺には我が国最大級の宗教都市が形成され、最盛期には48社、36堂、そして6,000もの僧坊があったとされます。中世の巨大寺院は宗教権力として自己を防衛するために城を築きましたが、朝倉氏から自立した支配権を保障された白山平泉寺も多くの僧兵を有し、一向一揆などと戦う朝倉氏に強大な軍力で味方しました。山の谷間に約1キロメートルも連なる樹齢300年を超える杉木立の菩提林の参道の石畳は、九頭竜川や女神川の川原石を手渡しで運んでつくられたと伝えられています。一面が苔に覆われた、神秘的で幻想的な境内の礎石からは、当時、正面が80メートルにも及ぶ大拝殿があったことがわかります。山から切り出した石で築いたとされる本社の巨石の石垣は高さ3メートル、長さ110メートル以上にもわたり、巨大な壁となって人々を圧倒します。坊院跡には国内最大規模の石畳道が縦横に張り巡らされ、石組みの側溝が残るなど、計画的に町並みが整備されていたことに驚かされます。周辺の集落には、坊院跡の石垣を現在も当時のままの状態



平泉寺白山神社の参道



平泉寺白山神社の大石垣

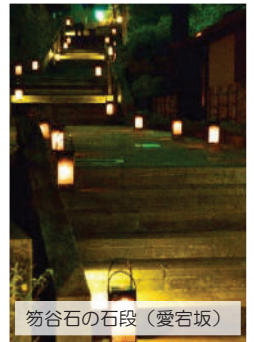
利用している屋敷もあります。荘厳にして静寂な神域へと私たちを誘う白山平泉寺一帯に広がる石は、かつて巨大な宗教都市が確かに存在したことを思い起こさせます。戦国期、武家はこのように中世寺院が有していた石積みあぼかや石を割る技術あぼかをまちづくりなどに導入したと考えられ、一乗谷のまちづくりも、阿波賀街道を通じて、白山平泉寺から非常に強い影響を受けたとされています。

## (近世城下町のまちづくりと石)

朝倉氏の時代に築かれた石積みなどの技術は近世以降ますます磨かれ、生産力も飛躍的に向上しました。

福井城下のまちづくりには、足羽山から採掘された美しい青色の「笏谷石」しやくだにいしが大量に用いられました。約1,500年前に継体天皇が見つけたとの伝説が伝わる、水に濡れると鮮やかな青緑色に変化する、とても不思議な石です。一乗谷から商人、職人が移住し、新しい越前国の城下町づくりの拠点となった北ノ庄の城主 柴田勝家が北陸道と足羽川が交わる地に架けさせたつくもばしとされる「九十九橋」は半分が木、半分が笏谷石でつくられていました。橋脚部

分の笏谷石は今も北ノ庄城址や福井市立郷土歴史博物館などに残り、福井の歴史の証人となっています。北ノ庄城から受け継がれ、福井市の都市建設の中心となった福井城址の石垣は約40,000個とも言われる、小さく切り出された笏谷石のみで築かれており、全国の城の中で最も美しいとされています。このほか、屋敷一帯が笏谷石採掘地跡地に静かに佇み、幕末の志士たちが密会を開いた庵として知られる「丹巖洞」や、1,360枚もの笏谷石が敷き詰められ、巨大な墓石から柵、門扉にいたるまで笏谷石が使われている松平家の廟所「大安寺千畳敷」では、笏谷石が作り出す世界そのものを体感することができます。近世期以降、北前船で日本海側沿岸の各地に運ばれた笏谷石は全国の優れた石づくり文化を支えてきましたが、笏谷石のふるさと福井では笏谷石が風景に溶け込み、晴れの日には美しい青色が宝石のように輝きを放ち、雨の日には街中が淡い青緑色のベールに包まれるようです。神社の鳥居や石段、家屋の敷石や門柱、さらには公園のモニュメントなど、笏谷石は今も福井の人々の身近な暮らしの中で見ることができます。



一方、勝山市では、中心市街地をほぼ南北方向に高さ5~7メートルの石の壁が断続的に続いています。これは九頭竜川の浸食と堆積、土地の隆起の繰り返しという自然の力によってつくられた河岸段丘をまちづくりに活用したもので、長さが20キロメートル余りもあることから「七里壁」と呼ばれています。江戸時代にはこの壁を境に、石垣の上の段丘面に武家屋敷が、石垣の下の低い段丘面には町家・寺院が配置され、南北の道路で整然と区割りされた城下町が形成されていました。街を東西に横切る小路は「おたね坂」や「小姥坂」などのように逸話から名付けられた坂道となっており、段丘の最も低い面からは伏流水となった清水が今も湧き出しています。福井平野を潤す九頭竜川の中流域沿岸に形成されたこの地では、大地が奏でる時の流れの音を感じながら、風情のある城下町の面影を偲ぶことができます。

### (石に現れた日本人の美と信仰)

石はまちづくりに用いられただけでなく、日本人の自然観や精神文化を象徴する独自の芸術作品を生み出しました。

福井では、華やかな戦国文化の隆盛を物語る、多様な戦国期様式の庭園群が往時そのままの姿で出迎えます。池泉回遊式庭園の4メートルを超える滝副の巨石は中世都市の栄華を象徴するようであり、荒々しく石が組まれた勇壮な庭園は戦国武士の真の気迫を漂わせます。客人をもてなすためにつくられた平庭の美しい流れ模様の海石は見る者すべてを非日常の世界へと導き、枯山水の庭園では石と苔と古木が幽玄な世界をつくり出しています。今も豊かな自然景観と重なり合う、これらの庭園群を見れば、戦国期の日本人の美意識の神髄に触れることができます。



近世期、松平家の別邸であった「養浩館庭園」では、東尋坊で知られる越前海岸の柱状節理の岩柱などが印象的に用いられているほか、福井県内の名石を見ることができます。数寄屋造りの建物と調和した、水の景と石の景が作り出す空間からは、日本人独自の奥深く、豊かな侘び・寂びの世界を感じ取ることができます。

一乗谷周辺には戦国期の石仏や石塔などが全国でも例がないほど数多く残っています。繊細で優美な石仏の表情からは、戦国期の人々の祈りや鎮魂への思いが今も伝わってきます。このほか、福井の神社では美しい造形の狛犬を数多く見ることができますが、彫りが見事であるだけでなく、髪型や尾の形などにそれぞれ特徴があり、とても個性的です。

福井を訪れると、石が季節と織りなす美しい光景に毎年出会うことができます。春、残雪輝く奥越前の山並みを背に咲き乱れる九頭竜川の弁天桜。夏、杉木立に差し込む光に優しく包まれた平泉寺白山神社の苔の絨毯。秋、澄み切った朝の日差しを受けて水面に浮かぶ一乗谷の池泉庭園の散紅葉。冬、水墨画のような雪景色の中、新しい春を待ち焦がれる養浩館庭園の梅の蕾。越前・福井では、石が悠久の時を刻み続ける歴史の物語を私たちに届けてくれるのです。



## ストーリーの構成文化財一覧表

番号	ふりがな 文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
(石づくりの戦国城下町と中世宗教都市)				
1	いちじょうだにあさくらしいせき 一乗谷朝倉氏遺跡	国指定 (特別史跡)	計画的につくられた町全体が良好に残る戦国期最大の遺跡。遺跡内には町屋や武家屋敷など、発掘されたそのままの石垣や礎石を生かして当時の町並みを忠実かつ立体的に再現した復原町並があり、戦国時代の城下町の実像を体感することができる。	福井市
2	はくさんへいせんじ 白山平泉寺  きゅうけいだい 旧境内	国指定 (史跡)	奈良時代に白山を開山した泰澄によって越前側の登拝口に創建された山岳寺院で、一般的には平泉寺の名で知られる。境内には、発掘された石畳道や坊院の石垣が良好に残る。明治初年の神仏分離令により平泉寺の寺号を廃止し、白山神社となって今に至る。	勝山市
3	いちじょうだにこえず 一乗谷古絵図	未指定 (歴史資料)	江戸末期の一乗谷の風景を描く古絵図。山城や有力家臣の屋敷跡や寺院跡など、戦国時代の城下町の構造物が76カ所も記載されている。	福井市
4	はくさんへいせんじけいだいず 白山平泉寺境内図	未指定 (歴史資料)	中世の平泉寺を描いた古絵図。境内には、48社、36堂、6,000の坊院が建ち並んだとされる。	勝山市
5	いちじょう いりえ 「一乗の入江」の いしじきこう 石敷遺構	未指定 (遺跡)	船着き場や荷揚げ場の機能を果たし、川湊を持った流通拠点「一乗の入江」の一角とみられる遺構。川湊側は一段低く、表面に平らな石が積まれ、荷物を積み下ろしやすくなっている。	福井市
6	みのかいどう 美濃街道	未指定 (遺跡)	国外への派兵や物資の移動など、朝倉氏の領国支配に重要な役割を果たした街道の一つ。越前から美濃へ続く街道沿いには朝倉氏家臣の屋敷跡も見られる。	福井市
7	あさくらかいどう 朝倉街道	未指定 (遺跡)	朝倉氏の領国支配を支えた街道の一つであり、越前国内の各地を軍事的、経済的に結び付けた。街道沿いには朝倉氏の遺跡や伝承が数多く残されている。	福井市
8	あばかかいどう 安波賀街道	未指定 (遺跡)	一乗谷と白山平泉寺を最短で結んだ古道で、街道沿いには朝倉氏家臣の城跡や石仏などが残る。3	福井市 勝山市

9	くずりゅうがわ あすわがわ 九頭竜川・足羽川・  いちじょうだにかわ 一乗谷川	未指定 (遺跡)	一乗谷や白山平泉寺に見られる巨石や交易の品々が行き交うなど、都市の繁栄に大きな役割を果たした。足羽川は九頭竜川水系日野川の支流であり、福井市街地を流れる。足羽山から切り出された笏谷石は船に乗せられ、九頭竜川を下り、三国湊から全国各地にも運ばれた。	福井市 勝山市
10	いちじょうだにあさくら し いせき 一乗谷朝倉氏遺跡  しゅつどひん 出土品	国指定 (美術品)	一乗谷を発掘すると、土器・陶磁器などの遺物とともに多様な石製品が多数出土する。石材の多くは笏谷石であるが、一乗谷の奥に位置する浄教寺の砥山は近世期には全国的にも知られた、優れた砥石の産地であったことから、刃物を研ぐための中砥や仕上げ砥も出土している。	福井市
11	はくさんへいせんじしゅつどひん 白山平泉寺出土品	未指定	坊院は宗教的市施設であると同時に、僧侶の日常的な生活空間であったことから、坊院跡からは調理・食膳具などのほか、笏谷石製の行火なども見つかっている。	勝山市
(近世城下町のまちづくりと石)				
12	しゃくだにいし 笏谷石	未指定 (地質鉱物)	足羽山山麓部の通称「笏谷」付近を中心に産出し採掘された火山礫凝灰岩。水に濡れると深い青色に変化するため「青石」とも呼ばれる、福井の名石。約 1,500 年前に継体天皇が発見し、採掘を指示したという言い伝えが残る。平成 11 年に採掘は終了したが、採掘坑道跡や露天掘り跡などが数多く存在する。なお、一乗谷の武家屋敷や町屋からは多数の笏谷石製の生活道具が出土している。	福井市
13	きたのしょうじょうし 北ノ庄城址	未指定 (遺跡)	織田信長による朝倉氏滅亡後、織田家筆頭家老 柴田勝家によって築城された巨大城郭跡。笏谷石製の石瓦で葺かれていたとされる。	福井市
14	つくもぼし 九十九橋	未指定 (建造物)	足羽川に架かる橋。かつては、半石半木という稀にみる工法でつくられた橋であり、江戸時代には全国的な名橋・奇矯として全国に広く知られていた。現在も、北ノ庄城址や福井市立郷土歴史博物館に当時の橋脚が残る。	福井市
15	ふくいじょうし 福井城址	未指定 (遺跡)	慶長 6 年から 6 年をかけて福井藩主 結城秀康が築城した福井城は本丸を中心に、二の丸、三の丸、四の丸と四重の堀に囲まれていた。笏谷石で造られた本丸の石垣と堀が今も良好に今も残る。	福井市
16	しばはらようすい 芝原用水	未指定 (文化的景観)	結城秀康が北庄城（福井城）の大改修の際、飲料水確保を目的に造らせた上水路。底部には笏谷石の割石が敷き詰められ、両側にも笏谷石の石垣が整然と積まれていた。藩主別邸の御泉水屋敷（現 養浩館庭園）の泉水や城郭の堀への取水などにも使われた。	福井市

17	たんがんどう 丹巖洞	国登録 (建造物)	足羽山山麓の笏谷石採掘跡地に建てられた、福井藩医 山本瑞庵が別荘として営んだ草庵。幕末には福井藩主 松平春嶽を初め、志士たちが密会を開いた場所として知られる。笏谷石の採掘跡の洞と庭園に当時の雰囲気が残る。	福井市
18	だいあんぜんじ 大安禅寺	国指定 (建造物)	福井藩第4代藩主 松平光通によって明暦3年(1657)創建。本堂から300メートルほどの南西の山中には、笏谷石で造られた松平家歴代藩主の廟所である「千畳敷」がある。	福井市
19	あすわやましゅうへん けいかん 足羽山周辺の景観	未指定 (文化的景観)	足羽山山頂へと続く愛宕坂、百坂などの石段には笏谷石が使われており、周辺には笏谷石の採掘地跡が残る。また、足羽山およびその周辺には寺社が多く、鳥居や灯籠、踏石などに笏谷石が特に多く使われているなど、笏谷石文化の集積地となっている。	福井市
20	しちりかべ 七里壁	未指定 (遺跡)	九頭竜川の中流右岸に見られる河岸段丘の段丘崖。江戸時代には崖の上の段丘面にある武家屋敷地区と段丘崖下沖積低地にある町家地区を区分した。この間にはいくつもの狭い坂がある。	勝山市
21	きゅうかつやまじょうか 旧勝山城下の まちなみけいかん 街並み景観	未指定 (文化的景観)	江戸時代、七里壁の段丘上に沿ってつくられた勝山藩主 小笠原氏の城下町の旧市街地では今も城下町の風情を感じることができる。七里壁より下の段丘面で生活していた町人の行事として始まった「勝山左義長」は、300年以上続く福井県下最大の左義長である。	勝山市
22	おおしょうず 大清水	未指定 (遺跡)	勝山市の中心街地を形成する河岸段丘の最も低い段丘面から湧き出している湧水。この段丘面より高い位置にある段丘面の河川の水や雨水が地下に浸透したものである。	勝山市
(石に現れた日本人の美と信仰)				
23	いちじょうだにあさくら していえん 一乗谷朝倉氏庭園	国指定 (特別名勝)	林泉式庭園の湯殿跡庭園、諏訪館跡庭園、南陽寺跡庭園、朝倉館跡庭園の特別名勝庭園を初め、遺跡内では15か所以上の庭園が確認されている。長らく土に埋もれていたため、石組は比較的よく原形を残し、室町末期の庭園様式を今によく伝えている。	福井市
24	きゅうげんじょういん していえん 旧玄成院庭園	国指定 (名勝)	室町時代末期に作庭された北陸地方に現存する最古の庭園と伝わる回遊式枯山水庭園。正面上段の築山には立石・伏石による石組が施され、築山前面に配置された枯山には枯滝とみられる滝石組や大きな自然石の出島などがある。	勝山市
25	ようこうかんでいえん 養浩館庭園	国指定 (名勝)	江戸時代「御泉水屋敷」と呼ばれた福井藩松平家の別邸の廻遊式林泉庭園。空間構成や石橋、景石等が江戸時代の大名庭園の様子をよく伝えている。	福井市
26	いちじょうだにあさくら し 一乗谷朝倉氏 いせき せきぞうぶつ 遺跡の石造物	未指定 (彫刻)	笏谷石からつくられた石仏群は、西山光照寺跡や盛源寺などに数多く残り、その石仏・石塔(約6,000点)は一乗谷の繁栄ぶりを物語る。	福井市

27	はくさんへいせんじ 白山平泉寺の  せきぞうぶつ 石造物	未指定  (彫刻)	白山平泉寺旧境内には、廃仏毀釈などにより破損した石仏が点在し、戦国時代、僧侶の墓地であった平泉寺墓地には、平泉寺を再興した顕海和尚など住職の墓のほか、400 年以上前の石仏・五輪塔などが混在している。	勝山市
----	--	-----------------	--	-----

(※1) 文化財の名称には振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例:国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、県有形、市無形、未指定(建造物)、等)。なお、**未指定であっても文化財保護の体系に基づいた分類を記載**すること。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

## 構成文化財の写真一覧

いちじょうだにあさくらし いせき  
1 一乗谷朝倉氏遺跡



はくさんへいせんじきゅうけいだい  
2 白山平泉寺旧境内



いちじょうだにこえず  
3 一乗谷古絵図



はくさんへいせんじけいだいず  
4 白山平泉寺境内図



いちじょう いりえ いしじきこう  
5 「一乗の入江」の石敷遺構



みのかいどう  
6 美濃街道



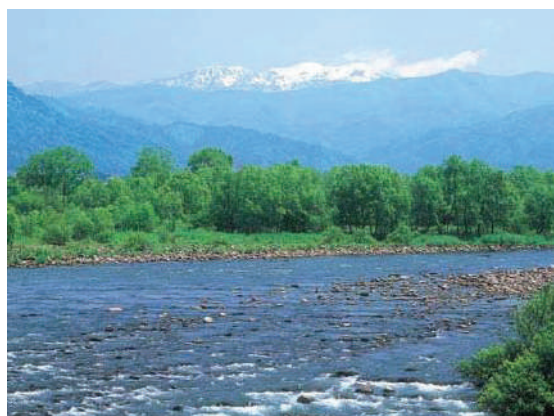
7 あさくらかいどう  
朝倉街道



8 あばかかいどう  
安波賀街道



9 くざりゅうがわ  
九頭竜川



9 あずわがわ  
足羽川



9 いちじょうだにかわ  
一乗谷川



10 いちじょうだにあさくらし いせきしゆつどひん  
一乗谷朝倉氏遺跡出土品



1 1 はくせんへいせんじしゆつどひん  
白山平泉寺出土品



1 2 しゃくだにいし  
笏谷石



1 3 きたのしょうじょうし  
北ノ庄城址



1 4 つくもぼし  
九十九橋



1 5 ふくいじょうし  
福井城址



1 6 しばはらようすい  
芝原用水



17 たんがんどう  
丹巖洞



18 だいはんぜんじ  
大安禅寺



19 あすわやましゅうへん けいかん  
足羽山周辺の景観



20 しちりかべ  
七里壁



21 きゅうかつやまじょうか まちなみけいかん  
旧勝山城下の街並み景観



22 おおしょうず  
大清水



23 いちじょうだにあさくらしていえん  
一乗谷朝倉氏庭園



24 きゅうげんじょういんていえん  
旧玄成院庭園



25 ようこうかんでいえん  
養浩館庭園



26 いちじょうだにあさくらしいせき せきぞうぶつ  
一乗谷朝倉氏遺跡の石造物



27 はくさんへいせんじ せきぞうぶつ  
白山平泉寺の石造物



## 日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
071	400年の歴史の扉を開ける旅 ～石から読み解く中世・近世のまちづくり 越前・福井～

## (1) 将来像 (ビジョン)

## ◆実現したい姿

越前・福井では、中世以降に、周辺で採掘された山石や、九頭竜川等で採取された川石、足羽山で採掘された笏谷石など、石を大量に用いて計画的につくられた都市が栄えた。また、「石」は石仏・石塔や庭園にも使われ、この地に住む人々の精神文化にも深く影響を及ぼした。さらに、現在もこれらの「石」は石垣、石畳道などの遺構として残るだけでなく、今もまちなかの身近な風景の中に息づき、そして石の前にいるわたしたちに、先人たちの営みや歴史を静かに語りかけてくる。

この地域の風土に根ざし世代を超えて受け継がれている一乗谷朝倉氏遺跡や白山平泉寺旧境内などの構成文化財を確実に保存・継承していくために、日本遺産「福井・勝山石がたり」のストーリーを基盤として、人材育成・環境整備・情報発信・観光誘客などの活用に関する取り組みを、分野横断的・地域総がかりで取り組み、構成文化財の保存・活用の好循環の生み出していくことを目指していく。

このような方針の元、キャッチコピーを「知ってもらい 来てもらい 豊かさ もたらず 石がたり」とし、今後は以下の取り組みを集中的に行う。

- (1) 既存コンテンツのブラッシュアップや新商品の開発、魅力ある体験コンテンツ等を組み合わせた周遊コースの充実
- (2) 石がたりのブランド化とその普及に地域住民や民間事業者との連携の推進による地域力向上、地域プレーヤーの育成
- (3) 訪日観光情報サイト等を活用した国内外への情報発信の強化
- (4) 地域住民等への石がたりストーリーの発信と周知による石がたりファンの拡大

## ◆地域の長期的構想（総合計画等）への日本遺産の位置づけ

福井県では、「ネクストふくい観光ビジョン (R7)」を策定し、個々の観光資源が持つ特徴あるストーリー（物語）やヒストリー（歴史）を掘り下げ、旅行者に効果的に届くことを目標とし、「福井・勝山石がたり」などの日本遺産を活用した情報発信と誘客促進を実施するとしている。

福井市の「第八次福井市総合計画」(R4.3)においては、「日本遺産に認定された一乗谷朝倉氏遺跡、養浩館庭園、白山平泉寺など多様な観光資源をつなげた魅力ある広域観光ルートを提供」すること等が施策として記載されている。

勝山市の「第6次勝山市総合計画（改訂版）」(R4.4)では、「日本遺産に認定された白山平泉寺旧境内の石畳道や旧勝山城下に残る七里壁の石垣などの「石の文化」など「魅力的な観光資源を活用し、観光の産業化に取り組むことを政策目標としている。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-A：構成文化財及び周辺施設への来訪者の数（単位：人）						
年	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	363,286	497,093	590,099	600,000	610,000	620,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	一乗谷朝倉氏遺跡復原町並、一乗谷朝倉氏遺跡博物館、養浩館庭園、大安禅寺、白山平泉寺歴史探遊館まほろば、はたや記念館ゆめおーれ勝山、勝山城博物館周辺入場者数 把握方法：各施設への聞き取り 2027年に2024年比5%増を目指す。(2027年 620,000人)					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-B：福井市内及び勝山市内の外国人宿泊者数（単位：人）						
年	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	4,724	13,596	19,575	20,200	20,400	20,600
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	福井市及び勝山市の外国人宿泊者数 把握方法：観光関係の統計 2027年に2024年比5%増を目指す。(2027年 20,600人) ※2024年は推計値、福井市は1月～11月までの数値					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-C：福井・勝山石がたり体験イベント等の参加者数（単位：人）						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	276	255	374	500	700	900
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	福井・勝山石がたり体験イベント等の参加者数 把握方法：石がたりフェス、体験イベント、ガイドツアー、石がたりに関する講演会の参加者数 毎年度200人ずつ参加者数の増加 ※2024年は12月末までの数値					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－A：福井県観光データ分析システムに基づく観光客満足度（単位：％）						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	91.1	89.2	90.9	92以上	92以上	92以上
指標・目標値の設定の 考え方及び把握方法	2022年度					
	養浩館庭園エリア 89					
	一乗谷朝倉氏遺跡エリア 89					
	白山平泉寺旧境内エリア 95.5					
	3エリアの平均 91.1					
	2023年度					
	養浩館庭園エリア 89.6					
	一乗谷朝倉氏遺跡エリア 89.3					
	白山平泉寺旧境内エリア 88.8					
	3エリアの平均 89.2					
	2024年度					
	養浩館庭園エリア 93.3					
	一乗谷朝倉氏遺跡エリア 90.1					
	白山平泉寺旧境内エリア 89.4					
3エリアの平均 90.9						
※2024年度は2025年12月末まで						
把握方法：						
福井県観光データ分析システムに基づくアンケート調査						
満足・とても満足の割合 2025年度以降92%以上を目指す						

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－B：福井県観光データ分析システムに基づく NPS の数値 ※NPS とは…福井県内観光地の推奨意向						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	10.5	7.5	17.5	12 以上	12 以上	12 以上
指標・目標値の設定の 考え方及び把握方法	2022 年度					
	養浩館庭園エリア                    -0.8					
	一乗谷朝倉氏遺跡エリア        3.6					
	白山平泉寺旧境内エリア       28.7					
	3 エリアの平均    10.5					
	2023 年度					
	養浩館庭園エリア                    7.32					
	一乗谷朝倉氏遺跡エリア        6.78					
	白山平泉寺旧境内エリア       8.38					
	3 エリアの平均    7.5					
	2024 年度					
	養浩館庭園エリア                    15.8					
	一乗谷朝倉氏遺跡エリア        9.2					
	白山平泉寺旧境内エリア       27.2					
	3 エリアの平均    17.5					
※2024 年度は 2025 年 12 月末まで 2025 年以降 NPS12 以上を目指す (2022 年度から 2024 年度 NPS 平均 11.8%)						

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること																								
指標③－A：日本遺産福井・勝山石がたりにかかる商品の売上額（単位：円）																								
年度	実績			目標																				
	2022	2023	2024	2025	2026	2027																		
数値	214,958千	266,419千	265,900千	273,000千	276,000千	279,000千																		
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>体験プログラム、日本遺産関連ツアー、日本遺産関連商品実績  2022年：3,433千 2023年：4,983千 2024年：4,623千  お土産品販売所での販売額（道の駅（福井市、勝山市））</p> <table border="0"> <tr> <td>2022年度</td> <td>道の駅一乗谷あさくら水の駅</td> <td>53,758千</td> </tr> <tr> <td></td> <td>道の駅恐竜渓谷勝山</td> <td>157,767千</td> </tr> <tr> <td>2023年度</td> <td>道の駅一乗谷あさくら水の駅</td> <td>55,631千</td> </tr> <tr> <td></td> <td>道の駅恐竜渓谷勝山</td> <td>205,805千</td> </tr> <tr> <td>2024年度</td> <td>道の駅一乗谷あさくら水の駅</td> <td>49,989千</td> </tr> <tr> <td></td> <td>道の駅恐竜渓谷勝山</td> <td>211,288千</td> </tr> </table> <p>※2024年度は12月末時点  把握方法：民間事業者への聞き取り  2027年度に2024年度比5%増加を目指す。  （2027年度 279,000千円）</p>						2022年度	道の駅一乗谷あさくら水の駅	53,758千		道の駅恐竜渓谷勝山	157,767千	2023年度	道の駅一乗谷あさくら水の駅	55,631千		道の駅恐竜渓谷勝山	205,805千	2024年度	道の駅一乗谷あさくら水の駅	49,989千		道の駅恐竜渓谷勝山	211,288千
2022年度	道の駅一乗谷あさくら水の駅	53,758千																						
	道の駅恐竜渓谷勝山	157,767千																						
2023年度	道の駅一乗谷あさくら水の駅	55,631千																						
	道の駅恐竜渓谷勝山	205,805千																						
2024年度	道の駅一乗谷あさくら水の駅	49,989千																						
	道の駅恐竜渓谷勝山	211,288千																						

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産の保存・活用・普及啓発を目的とした寄付金額（単位：円）						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	0	0	6,050千	6,100千	6,100千	6,100千
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>構成文化財の保存・活用・魅力向上に対する寄付額  （クラウドファンディング、ふるさと納税）  把握方法：寄付額 2024年度の数値を上回る寄付額</p>					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：福井市及び勝山市への観光客入込数（単位：人）						
年	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	5,309,000	6,110,000	7,428,971	7,500,000	7,500,000	7,500,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>福井市及び勝山市の観光客入込数 ※2024年は推計値  把握方法：観光関係統計  2029年に2023年比20%増（2029年に7,332,000人）を目指す、ネクスト福井観光ビジョン観光客入込目標を、2024年で達成しているため、2025年以降は2024年と同程度の人数を目指す。</p>					

### (3) 地域活性化のための取組の概要

#### 【地域の現状】

認定地域の福井県福井市及び勝山市は、各市の総合計画において、日本遺産に認定された観光資源を生かした観光ルートの提供や、「石の文化」などの魅力的な観光資源の活用を図ることを目標として、日本遺産を通じた地域活性化に取り組んでいる。認定以後ホームページ・案内看板・ガイダンス施設の整備による情報発信、日本遺産フェスや講演会・企画展を通じた普及・啓発、民間事業者・団体主導による商品開発、スタンプラリーや周遊ツアー造成といった観光周遊促進、小学校間の交流事業や認定ガイドの養成といった人材育成に取り組んできた。

#### 【これまでの主な成果】

##### ○地元団体、民間事業者主導による商品開発と経済効果の創出

日本遺産福井・勝山石がたりに関する商品開発に向けたワークショップを開催し、協議会と地元団体や民間事業者との連携体制が構築された。有識者のアドバイスを受けながら、商品開発を重ね、28点の日本遺産関連の商品を開発することができた。開発した商品の一部は、お土産品販売所や道の駅で販売されている。また福井市と勝山市の周遊促進に向け、体験イベントをめぐるスタンプラリーや周遊ツアーの造成を行った。

##### ○「シリアル型」の日本遺産として福井県・福井市・勝山市の連携した調査・研究・認定ガイド養成の実施

日本遺産のストーリーに基づき、自治体の枠を超えた広域の石の歴史・文化・技術の調査研究を行い、県内外へ広く周知を行った。また、日本遺産の魅力を発信する認定ガイド養成講座を開催し、100名を超える方を日本遺産ガイドとして認定することができた。

##### ○外部組織と連携した日本遺産に関する調査・研究の実施

全国各地の研究者の協力のもと、構成文化財や福井県内外各地の石の土木技術等の調査・研究を行った。調査・研究成果については、報告書刊行のほか、「歴史紡ぐ石文化」と題し、月1回程度のペースで2019年から2024年まで地方紙の「日刊県民福井」に連載し、広く周知を図った。また、定期的に調査・研究の成果を多くの方に知ってもらうための講演会やシンポジウムを開催した。

##### ○小学生主導の日本遺産の普及活動の実施

福井市の一乗小学校と勝山市の平泉寺小学校の児童が主導となり、観光客に対する構成文化財のガイドやガイド能力の向上に向けた両学校の交流事業を行った。知識の向上に向けた取組としては、県内の構成文化財でガイド団体からの説明を聞く、県外の石の文化の取組を聞く等を実施した。また、県内外のイベントでの取り組みの紹介や日本遺産「福井・勝山石がたり」の発信を行い、地域住民や観光客に対する普及促進を行った。

##### ○構成文化財等の多言語化

多言語に対応した構成文化財案内看板の整備、音声ガイドの整備、ガイドブックの制作、WEBサイトの構築を行った。

## 【課題】

- ホームページやSNSの閲覧数が少なく、日本遺産の魅力的なストーリーを幅広く発信することができていない。
- 開発したコンテンツのPRや日本遺産の取組を紹介するフェスティバルを定期的開催しているが、参加者が少なく、日本遺産に認定されていることを知っている地域住民の割合が低いことから、コンテンツや日本遺産の認知が進んでいない。
- 企業や団体主導で製作した商品、プログラム、ツアーのPRが十分にできておらず、販売が促進されていない。
- 100名を超える方が日本遺産認定ガイドに登録されているが、活躍の場を十分に提供することができていない。
- 一乗小学校と平泉寺小学校の交流事業により、両校の小学生への日本遺産に対する普及が進んだが、2校以外への普及が進んでいない。

## 【今後の取り組み】

### （県内外への情報発信）

- ①観光関係者等と連携して、古から今に息づく福井城や七里壁の石垣を積む技術や生活品や石仏・石塔などの石を加工する技術などの魅力を、インバウンドを意識した広報媒体やジャパンガイドコム等の訪日観光情報サイト等を活用して広く情報発信するとともに、国内外商談会等における情報発信活動を強化する。
- ②平泉寺白山神社 三十三式年祭（御開帳）、北庄築城450年記念（令和7年度）などのアニバーサリー年や大河ドラマ『豊臣兄弟』（令和8年）など、構成文化財と関連するものを活用した観光プロモーションを行う。

### （地域への普及・啓発）

- ③地域に根付く文化や構成文化財等と関連付けた講演会、巡回パネル展の開催、公民館等で石がたりの調査・研究成果の発表や調査・研究成果の書籍刊行など、地域住民への日本遺産ストーリーの発信と周知により価値を広く共有することで日本遺産のサポーターを育成する。
- ④日本遺産「福井・勝山石がたり」のシンボルマークを関連イベントや関連商品等をはじめとした様々な事業で積極的に利用し普及啓発を図る。
- ⑤ 笏谷石を広く知ってもらうためのガイダンス施設整備やそれ以外の構成文化財に関わる既存施設のリニューアルに向けた調査検討を行う。

### （観光周遊促進）

- ⑥ 伝統技術や伝統工芸品と連携したコンテンツを造成し、福井のモノづくり技術と石がたり関連商品を広く発信する。例えば、笏谷石と越前和紙のコラボ商品の開発のほか、笏谷石の器を用いた福井の食文化との連携そして、笏谷石などの石と伝統技術を活かしてブランド化したコンテンツを紹介する多言語対応の映像等を制作し、インバウンド向けに情報発信を行い、外国人観光客等の誘客を図る。

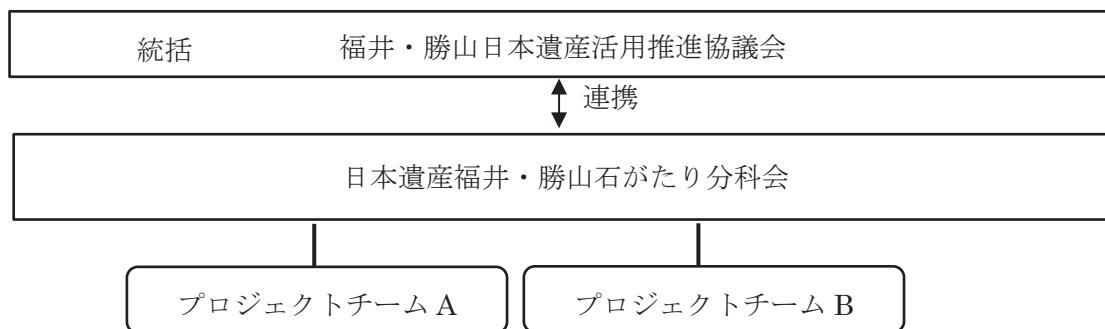
- ⑦ アンケート等を活用した市場調査とその結果の分析を活用して、インバウンドをターゲットにした既存コンテンツの磨き上げを行う。
- ⑧ 一乗谷文化祭や白山平泉寺御開帳等の構成文化財に関連したイベントとの連携や、飲食店やショップとのコラボ、映えフォトスポット設置など、新たな日本遺産のファン層の開拓を行う。

(認定ガイドの活躍の場の提供、小中学生への普及・啓発)

- ⑨ 認定ガイドが主体的に公認コースの造成や周遊ガイドツアーを実施し、ガイド実施者と観光客の満足度を高めることで、ガイド件数の増加を図る。また、ガイド知識や能力の向上にあたっては、福井市及び勝山市の各ガイド団体間で意見交換を行うことで、日本遺産「福井・勝山石がたり」ストーリーの理解を深める。
- ⑩ 福井市及び勝山市市域の小中学生を対象に、未来の語り部事業として、日本遺産の魅力を伝える石がたり体験イベント等を行い、日本遺産の普及啓発を図る。日本遺産「福井・勝山石がたり」に関する知識を深める探究活動を通して地域の歴史・文化の面白さや大切に思う心を育み、日本遺産に関連した取り組みの担い手育成につなげていく。

#### (4) 実施体制

福井・勝山日本遺産活用推進協議会が日本遺産を通じた地域活性化に関する事業を統括している。福井県、福井市、勝山市の行政関係者のほか、観光関係者、市民団体、構成文化財所有者、民間事業者等の地域プレイヤーを構成員とした「福井・勝山石がたり分科会」を設立する。分科会内で情報発信や商品開発、人材育成を主体で実施する「プロジェクトチーム」が主導となって、事業を推進する。日本遺産福井・勝山石がたり分科会が協議会と連携し、プロジェクトチームの進捗状況の把握や取り組みのサポート等を行う。事業の推進にあたっては観光事業者によるコーディネートを行う。



#### [人材育成・確保の方針]

小中学生を対象にした「普及啓発」を継続的に実施し、日本遺産のストーリーや構成文化財の魅力を知ることによって地域の歴史・文化の面白さや大切に思う心を育み、日本遺産に関連した取り組みの将来の担い手育成につなげる。

#### (5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

構成文化財所有者、地域プレイヤー、民間事業者等が主体となり組織された福井・勝山石がたり分科会が中心となって取り組む商品開発や体験プログラム制作及びその磨き上げ等について、国庫補助やクラウドファンディング等を活用しながら協議会や行政が支援して、収益が得られる仕組みづくりに取り組む。日本遺産ストーリーや構成文化財を活用する事業者が収益を得る仕組みを作り、構成文化財の保存と経済の好循環を生み出すことを目指す。

#### (6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

##### ① 構成文化財の保存及び活用を目的としたクラウドファンディング等の寄附の活用

2024年に、福井城址や養浩館庭園など文化財の保存及び活用に関する事業費にクラウドファンディング等の寄附金を活用している。寄附を募る際の返礼品についても、今後は日本遺産関連の新商品の開発を事業者等と連携して取り組む。

##### ② 構成文化財の保存・活用の推進

一乗谷朝倉氏遺跡や白山平泉寺旧境内、養浩館庭園、大安禅寺などの文化財については、文化財保存活用地域計画等に基づき、引き続き保存整備を進めるとともに観光に積極的に活用していく。

##### ③ 構成文化財の調査・研究

今後も、構成文化財をより深く知るための調査・研究を地道に行い、その成果をストーリーの広がりや反映させることで日本遺産の魅力を高めるとともに、情報発信や案内ガイドの内容に活かしていく。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	石がたりサポーター人材育成・支援事業		
概要	石がたりサポーター人材の発掘や地域プレイヤーの取組の県内外へのPRを行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	石がたりサポーター人材育成・発掘	日本遺産に興味・関心のある方を増やすため、地域の歴史と関連付けた講演会を開催する。	市民団体
②	各種補助金やクラウドファンディングの活用	構成文化財の整備や魅力向上に係る多様な資金調達の方法として各種補助金やクラウドファンディングを活用する。	構成文化財所有者
③	地域プレイヤーによる取組を支援	地域プレイヤーが主体となる分科会を設立し、情報発信やイベントを行う。構成文化財所有者と地域プレイヤーの連携体制を強化する。	分科会協議会
④	地元団体・事業者主導での普及啓発活動	地域活動団体主導で石を幅広く発信する普及・啓発活動を行う。	市民団体
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	構成文化財等で活動する地域プレイヤー数及びワークショップ参加者数		22人
2023			8人
2024			11人
2025	構成文化財等で活動する地域プレイヤー数及びワークショップ参加者数		25人
2026			30人
2027			35人
事業費	2025年度 1,000千円 2026年度：1,000千円 2027年度：1,000千円		
継続に向けた事業設計	福井市、勝山市の事業者、観光関係者、行政等で構成した日本遺産石がたり分科会が主導で事業を行い、協議会や行政が活動を支援する。観光事業者が全体コーディネーターを担当する。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号2-A)

事業名	総合計画に基づく事業の推進		
概要	福井市及び勝山市の総合計画等に基づき事業を推進する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	総合計画と連携した観光ルート の提供や産業観光の推進	総合計画に基づき、構成文化財を巡る周遊ツアーを実施し、構成文化財への入込数の増加を目指す。	分科会
②	観光計画と連携した受け入れ体制整備やプログラムの開発	観光計画に基づき、日本遺産周遊ルートを設定し認定ガイドによる五感で感じることができる周遊ツアーを行う。	分科会
③	文化財保存活用地域計画と連携した文化財の保存・調査・研究・活用	文化財保存活用地域計画に基づき、文化財の保存や調査・研究・活用を推進する。	行政
④	各種マーケティング調査の実施	アンケートを活用した市場調査とその結果を分析して、インバウンドをターゲットにした既存コンテンツの磨き上げを行う。	観光関係者
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	日本遺産に認定されていることを知っている人の割合		69.9%
2023			54.5%
2024			78.9%
2025	日本遺産に認定されていることを知っている人の割合		70%以上
2026			70%以上
2027			70%以上
事業費	2025年度：1,500千円 2026年度：1,500千円 2027年度：1,500千円		
継続に向けた事業設計	観光関係者と連携しアンケート調査等に基づき、商品のブラッシュアップを図り、商品の販売促進を目指す。		

(7) - 3 人材育成

(事業番号 3 - A)

事業名	認定ガイドの活躍の場の創出		
概要	石がたり認定ガイドのスキルアップや、公認コースのガイドツアーを行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	認定ガイドスキルアップ講座の開催	認定ガイドのスキルを向上させる講座や福井市と勝山市のガイド間の交流事業を行い、ガイドの相違点等を学び、知識の向上を図る。	市民団体
②	石がたり公認ガイドツアーの実施	福井駅周辺や白山平泉寺周辺等を巡る日本遺産公認のガイドコースを作成し、定期的にガイドツアーを行う。	市民団体
③	認定ガイドによる体験イベントの実施	認定ガイドが主導となり、石を使った体験イベントや講座を行う。	市民団体
④	観光事業者による事業のコーディネート	観光事業者が行政、観光関係者、市民団体をつなぐ事業の全体コーディネートを務める。	観光事業者
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	認定ガイドによるガイドツアーの回数		8回
2023			7回
2024			2回
2025	認定ガイドによるガイドツアーの回数		10回
2026			15回
2027			20回
事業費	2025年度：750千円 2026年度：750千円 2027年度：750千円		
継続に向けた事業設計	体験イベントについて、ボランティアである認定ガイドが主導で実施することで継続的な活動につなげる。		

(7) - 4 整備

(事業番号4-A)

事業名	構成文化財の保存・活用・調査		
概要	構成文化財の適切な維持管理や、構成文化財の調査研究の実施、成果の活用		
	取組名	取組内容	実施主体
①	構成文化財修理・保存	養浩館庭園、大安禅寺、一乗谷朝倉氏遺跡、白山平泉寺旧境内など構成文化財を適切に保存するため、維持管理や修理を計画的に実施する。	構成文化財所有者
②	調査・研究の実施	一乗谷朝倉氏遺跡や白山平泉寺旧境内の発掘調査等に基づく調査・研究を実施する。	行政
③	「笏谷石」ガイダンス施設整備に向けた調査	笏谷石やそれに関わる日本遺産ストーリーを幅広く知ってもらうためのガイダンス施設整備に向け、整備場所の検討を行う。	行政
④	石がたりストーリーに含まれる既存施設のリニューアルに向けた調査	中世越前の石の文化や技術など、日本遺産ストーリーをより深く理解できるように、既存施設のリニューアルの検討および調査・研究を行う。	行政
⑤	調査研究成果の書籍化	地方紙「日刊県民福井」に連載した調査・研究成果等をより幅広く知ってもらうために、書籍を刊行する。	行政
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	石がたり調査研究講演会参加者数 (石がたりの基礎知識、スキルアップなど)		75人
2023			85人
2024			100人(推計値)
2025	石がたり調査研究講演会参加者数 (石がたりの基礎知識、スキルアップなど)		110人
2026			120人
2027			130人
事業費	2025年度：1,000千円 各構成文化財所有者 2026年度：各構成文化財所有者 2027年度：各構成文化財所有者		
継続に向けた事業設計	研究成果を広く発信することで、石がたりに興味関心のある方を増やし、継続的な認定ガイドの取組につなげる。		

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	石がたりコンテンツ造成、利活用事業		
概要	石がたり公認ブランドの造成や既存コンテンツの魅力向上を目指す。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	石がたり公認ブランドの造成	日本遺産関連商品を公認ブランドに認定し、商品のPR等を行うことで、日本遺産関連商品の販売促進につなげる。	事業者分科会
②	既存コンテンツの魅力向上	日本遺産ツアーや体験プログラムの調査・分析を行い、福井の食文化や伝統行事等と連携を図り、インバウンドなどの幅広い観光客向けにコンテンツのブラッシュアップを図る。	事業者分科会
③	福井のモノづくりとの連携	笏谷石と越前和紙といった福井のモノづくり技術を組み合わせた商品の開発支援を行い、福井の匠の技を広くPRし、観光誘客につなげる。	民間企業分科会
④	地域のイベント等と連携した日本遺産フェスの開催	構成文化財で開催されるイベントとの連携や福井駅周辺施設で日本遺産コンテンツをPRするフェスを開催し、広く周知を図る。	分科会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	福井市及び勝山市の観光客入込数		5,309,000人
2023			6,110,000人
2024			7,428,971人
2025	福井市及び勝山市の観光客入込数		7,500,000人
2026			7,500,000人
2027			7,500,000人
事業費	2025年度：1,500千円 2026年度：1,500千円 2027年度：1,500千円		
継続に向けた事業設計	公認ブランドについては、商品の売り上げの一部を構成文化財の普及・啓発事業や保存活用費に充て、継続的な事業につなげる。		

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	市民向けおよび小中学生を対象にした普及・啓発
概要	公共施設等での講座や小中学生に対するワークショップ等を通じ、広く普及啓発を図る。

	取組名	取組内容	実施主体
①	市民向けの講座やパネル展の開催	市民に広く日本遺産「福井・勝山石がたり」について知ってもらうため、公共施設等で市民向けの講座やパネル展を開催する。	市民団体 行政
②	未来の語り部事業小中学生向けの体験イベント	日本遺産の魅力を楽しく学ぶことができ、石を見て、触れて、加工する小中学生向けの体験イベントを行う。	市民団体 行政
③	未来の語り部事業小中学生向けの探究活動の実施	構成文化財でのガイドを聞いて日本遺産の知識を深めるといった活動や、地域の日本遺産の取組に対する探究活動を行う。	市民団体 行政
④	イベントや関連商品での石がたりシンボルマークの活用	日本遺産関連イベントや関連商品をはじめとしたさまざまな事業で積極的な活用を依頼する。	行政

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	小中学生向けの体験イベント等に参加した人数	102人
2023		30人
2024		90人
2025	小中学生向けの体験イベント等に参加した人数	100人
2026		110人
2027		120人

事業費	2025年度：250千円 2026年度：250千円 2027年度：250千円
-----	--

継続に向けた事業設計	講演会や小中学生向けの事業を市民団体が主導で実施することで、継続的な事業につなげる。
------------	--

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	情報発信事業		
概要	インバウンドを意識し、Instagramや訪日観光情報サイト等を活用した情報発信を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	SNSによる継続的な情報発信	観光関係者と連携し、Facebookに加えInstagramを活用し広く情報発信を行う。	行政
②	地域プレイヤーの取組を広く発信	構成文化財で活躍する構成文化財所有者や石加工技術を持つ石工等、石関連の取組をしているプレイヤーについて、訪日観光情報サイト等の発信媒体を活用し広くPRする。	観光関係者分科会
③	日本遺産「福井・勝山石がたり」ホームページのリニューアル	構成文化財所有者や石関連の取組、公認ガイドコースをわかりやすく掲載したホームページにリニューアルする。	行政
④	情報発信におけるシンボルマークの活用	日本遺産「福井・勝山石がたり」マークの画像やテキストを実施団体と共有し、様々な媒体を通して石がたりを発信する。	観光関係者分科会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	SNSフォロワー数		535人
2023			682人
2024			752人
2025	SNSフォロワー数		800人
2026			850人
2027			900人
事業費	2025年度：1,500千円 2026年度：2,500千円 2027年度：2,500千円		
継続に向けた事業設計	観光関係者と連携し、情報発信することで、継続的な取組につなげる。		